

経営学部教育方針

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

4年間の「講義」と「演習」を通して、企業や組織など社会で活躍するにあたって経営学部卒業生として備えていなければならない知識と技能などを培って、社会に有為な人材養成を目指す。卒業時までには備わっていない能力を講義、演習、卒業論文の担当教員が試験、レポート、論文などで厳正に評価して、単位の認定をおこない、卒業年度の学部教授会で学位授与を最終的に総合判定する。

経営学部生が卒業時までには備えていなければならない能力

知識・理解

社会が必要とする経営学、情報、会計学、商学の専門知識を有して活用できる。
企業、組織と社会との関係について理解し、説明できる。
企業、組織がもつ部門とその活動について理解し、説明できる。

思考力

企業や組織など、社会の諸事象について論理的に考えることができる。

汎用的技能

企業や組織などの諸問題について IT スキルや分析手法を効果的に活用することができる。
問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析して問題を適切に解決できる。
言語、IT スキルを活用して他者に自己の考えを伝えたり、他者の考えを聞いて理解することができる。

興味・関心

企業や組織などの経営、管理、運営について問題意識と関心をもつことができる。
海外の企業や組織などについて興味・関心をもつことができる。

態度・志向

幅広い教養と専門知識を基に国内外の歴史、社会、政治について異文化理解ができる。
企業や組織に関する知識や技能を活かして問題解決のために実践的に行動できる。
公正な倫理と使命観をもって自己の職業を通して社会のために積極的に関与できる。
生涯にわたって教養や知識を修得するために自律的に行動できる。

■カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

経営学部では企業や組織の経営、管理、運営上において必要とされる経営、情報、会計、流通、経営教育、国際ビジネスの知識や技能を教授する。

1年次に「経営学部基礎演習」を配置し、2年次から「経営コース」「情報コース」「会計コース」「流通コース」「経営教育コース」「国際ビジネスコース」の6コースに専門演習を置いて、4年間にわたって指導教授を中心にした指導体制をとる。各コースでは核科目、関連科目、周辺科目、自由科目を配置して独自のカリキュラムを編成している。卒業時までには共通教育科目（キャリア教育科目を含む）、言語文化科目、健康文化科目などに加えてコースの専門科目を選択・履修させ、幅広い教養知識と専門知識、技能、思考力、意思の伝達と表現能力、社会的使命観などを身につけさせる。

松山大学経営学部が目指す基本的素養、学習成果、カリキュラム・ポリシー

基本的素養	学 習 成 果	カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）
知識・理解	社会が必要とする経営学、情報、会計学、商学の専門知識を有して活用できる。	経営学、会計学、情報、商学、経営教育、国際ビジネスの分野の講義科目・演習など
	企業、組織と社会との関係について理解し、説明できる。	経営学概論、簿記原理、経営学部基礎演習、演習第一、演習第二、演習第三、卒業論文など
	企業、組織がもつ部門とその活動について理解し、説明できる。	産業研究とキャリアプランニング、地域産業論、銀行論、上記以外の経営学、会計学、情報、商学、経営教育、国際ビジネス分野の講義科目・演習など
思考力	企業や組織など、社会の諸事象について論理的に考えることができる。	4年間の経営学、会計学、情報、商学、経営教育、国際ビジネスの分野の講義で学んだ知識を基礎にして「演習」活動と「卒業論文」の作成を通して培う
汎用的技能	企業や組織などの諸問題についてITスキルや分析手法を効果的に活用することができる。	ITスキルズ、コンピュータ初級、コンピュータ通論、経営基本統計学、経営工学概論、経営情報システム論、経営データ解析、経営科学、品質システム論、情報処理論（基礎）、情報処理論（応用）、経営財務論、商業会計論、原価計算論、税務会計論、会計情報解析論、管理会計論、資金会計論、財務会計論、国際会計論、工業会計論、会計監査論、上記以外の経営学、会計学、情報、商学、経営教育、国際ビジネスの分野の講義科目、演習など
	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析して問題を適切に解決できる。	ITスキルズ、コンピュータ初級、コンピュータ通論、経営基本統計学、経営工学概論、経営情報システム論、経営データ解析、経営科学、品質システム論、情報処理論（基礎）、情報処理論（応用）、経営財務論、商業会計論、原価計算論、税務会計論、会計情報解析論、管理会計論、資金会計論、財務会計論、国際会計論、工業会計論、会計監査論、産業心理学、カウンセリング論、上記以外の経営学、会計学、情報、商学、経営教育、国際ビジネスの分野の講義科目・演習科目など
	言語、ITスキルを活用して他者に自己の考えを伝えたり、他者の考えを聞いて理解することができる。	外国語科目、インターンシップ活用I・II、インターンシップ研修A・B、国際コミュニケーション・スキルズ、国際ビジネスコミュニケーション、実用英語、演習、卒業論文など
興味・関心	企業や組織などの経営、管理、運営について問題意識と関心をもつことができる。	簿記原理、経営学概論、企業論、経営管理論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、マーケティング論、国際経営論など
	海外の企業や組織などについて興味・関心をもつことができる。	国際経営論、国際会計論、国際マーケティング論、貿易論、一般経営史、商業史など
態度・志向	幅広い教養と専門知識を基に国内、国外の歴史、社会、政治について異文化理解ができる。	共通教育科目（人文・社会科学、自然科学）、言語文化科目（言語文化基礎科目、言語文化上級科目、言語文化演習）、健康文化科目（健康生活、スポーツ科学、健康文化演習）など
	企業や組織に関する知識や技能を活かして問題解決のために実践的に行動できる。	ITスキルズ、コンピュータ初級、コンピュータ通論、経営基本統計学、経営工学概論、経営情報システム論、経営データ解析、経営科学、品質システム論、情報処理論（基礎）、情報処理論（応用）、経営財務論、商業会計論、原価計算論、税務会計論、会計情報解析論、管理会計論、資金会計論、財務会計論、国際会計論、工業会計論、会計監査論、上記以外の経営学、会計学、情報、商学、経営教育、国際ビジネスの分野の講義科目・演習など
	公正な倫理と使命観をもって自己の職業を通して社会のために積極的に関与できる。	情報社会・倫理論、キャリアマネジメント論I・II、キャリア形成論、キャリア形成実践論、インターンシップ活用I・II、インターンシップ研修A・B、産業研究とキャリアプランニングなど
	生涯にわたって教養や知識を修得するために自律的に行動できる。	キャリアマネジメント論I・II、キャリア形成論、キャリア形成実践論、インターンシップ活用I・II、インターンシップ研修A・B、生涯学習論、ライフコース論など

■アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

校訓三実にもとづく学部教育を通して「高い教養と専門的能力」を培い、「問題発見能力」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」などを身につけた社会に有為の人材養成を目指している。経営学部では、4年間の教育指導をおこなうにあたって、次のような人物を求める。

- ・経営学部で学ぶにあたって必要な高等学校卒業レベルの基礎学力を習得している者
- ・企業や組織の活動に強い関心を持ち、専門的に学びたいとの意思をもつ者
- ・経営学部で教養や専門知識、技能を身につけて広く国内や国外での活躍を目指す者
- ・高度専門職業人として、仕事を通して社会に貢献したいとの社会的使命感を有する者
- ・広い社会的視野をもって、将来、社会で指導的地位に就きたい者
- ・勉学にとどまらず各種活動を通して行動力、協調性、指導力を自ら培おうとする者
- ・好奇心旺盛で何事にもチャレンジ精神を発揮できる者